

ヒューマンエラーから脱却するための「人間重視のヒューマンエラー防止法」【会場】

(4125172)

「命令でエラーを防止することは難しい、人間は内発的要因である『意欲』や『やりがい』によって動機付けされる」との理念に基いて「人間力」を改善活動の基盤として構成しています。「ケーススタディ」や「ワークショップ」を楽しく体験しながら「人間重視のヒューマンエラー防止法」を学んでいただくと共にセミナー教材を教育にご活用いただけます。

開催日時	2025年11月4日(火) 10:00-17:00会場
JUAS研修分類	ビジネススキル(思考法・問題解決)
カテゴリー	業務遂行スキル ヒューマンスキル
講師	関弘充 氏 (ヒューマン&クオリティ・ラボ 代表、元 富士通(株) 人材開発部 シニア・レクチャラ&上級教育士(工学)) 成蹊大学工学部経営工学科を卒業し、富士通(株) 入社。 品質検査部門、教育訓練部門を経てシステム開発部門において通信・金融・官公庁等のシステム開発マネージメントに関わる(途上、未来工学研究所主任研究員)。 近年、品質問題を抱える本部組織の品質改善に従事し(主席部長、品質保証部長)、S I分野で日本初のCMM&CMM I®レベル5を達成、社長賞&最高品質賞を受賞。 定年後も続投し、同社人材開発部門において「わくわく」元気塾&品質改善講座を開講。 多くのマネージャーおよびリーダ&品質改善プロフェッショナルを育成。2011年、富士通を退職。 その後、「人間力醸成」を基盤にした各種セミナー・講演・企業研修・コンサル等、3万人以上の方々への指導を行っている。 ■著書:「人間重視の品質マネージメント ソフトウェア品質保証システムの構築と実践」(SRC):堀田 勝美、関 弘充、宮崎 幸生。 ■日刊工業新聞社発行「工場管理」2018年2月号に講師の「人間重視のヒューマンエラー防止法」についての特集記事が掲載。 (注) CMM:世界的に著名な改善モデル Capability Maturity Model and CMM&CMM I are registered in the U.S. Patent and Trademark Office.
参加費	J U A S会員/ITC: 35,200円 一般: 45,100円(1名様あたり 消費税込み、テキスト込み)【受講権利枚数1枚】
会場	一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会(NBF東銀座スクエア2F)
対象	人間を主体にした作業や運用に従事している方。 リーダー、マネージャー、品質管理担当者、人材育成担当者、組織的な改革に携わっている方など 中級
開催形式	講義、グループ演習
定員	25名
取得ポイント	※ITC実践力ポイント対象のセミナーです。(2時間1ポイント)
ITCA認定時間	6

主な内容

■受講形態
会場のみ(オンラインなし)
■テキスト
当日配布
■開催日までの課題事項
特になし

”ルール強化はもう限界”
ヒューマンエラーから脱却するための「人間重視のヒューマンエラー防止法」

◆受講後の修得知識
1) ヒューマンエラー防止のための「仕組み考案のコツ」
2) 「人間力醸成法」
3) 「リスクマインド醸成法」
4) 「品質&改善マインド醸成法」

- 5) 「全員参加型改善活動の実践法」
- 6) 「具体的な導入方法」

◆セミナー内容

第1章 ヒューマンエラーと人間重視

- 1. 1 ヒューマンエラー防止活動の基盤
 - 1) ヒューマンエラー防止活動と「価値観の認識」
 - 2) 人間のタイプと改善活動
- 1. 2 ヒューマンエラー防止と本セミナーの主張
 - 1) 何故ヒューマンエラーが繰り返されるのか
 - 2) エラーが起きる前にやるべき効果的防止法

第2章 失敗を繰り返さないための「人間力の醸成」

- 2. 1 「失敗の構図」と「品質問題の発生」
- 2. 2 人間重視と人間力の醸成
 - 1) 人間重視の品質改善
 - 2) 「わくわく」感と人間力醸成の構図
- 2. 3 ヒューマンエラーとコミュニケーションの向上
 - 1) 演習1「トラブルと人間関係」
 - 2) 「心理学的な知恵」と人間関係の向上

第3章 ヒューマンエラー防止のための「動機付け」ケーススタディ

- 3. 1 人を動かす仕組み考案のコツ
 - 1) 「人を動かす仕組みの考案」
 - 2) 「人間重視型思考パターン」
- 3. 2 「動機付けする」ケーススタディ
 - 1) 演習2：「人を動かす再発防止計画」
 - 2) 人を動かす「再発防止計画1」

第4章 エラー防止のための「リスクマインド醸成」ワークショップ

- 4. 1 簡単にできる「問題発生防止」
 - 1) 「ヒューマンエラー防止」と「リスク管理」
 - 2) 「管理者と現場の乖離」を踏まえた「仕組み考案」
 - 3) 演習3：「ヒューマンエラーとリスク管理」
- 4. 2 「リスクマインドの醸成」と「リスク管理の仕組み」
 - 1) 「リスク意識の高い集団」と「リスクマインドの醸成」
 - 2) 人を活かし動かす「リスク管理」の仕組み事例
 - 3) 人を動かす「再発防止計画2」

第5章 エラー防止のための「品質&改善マインド醸成」ワークショップ

- 5. 1 エラーを防ぐ「品質&改善マインドの醸成」
 - 1) 「品質&改善マインド」の醸成事例
 - 2) 演習4：「ヒューマンエラー防止と改善提案」
- 5. 2 「わくわく」感を生み出す「全員参加型改善活動」
 - 1) 「全員参加型改善活動」の仕組み事例
 - 2) 「改善意識の高い組織」と「全員参加型改善活動」
 - 3) 人を動かす「再発防止計画3」

第6章 失敗を繰り返さないための「具体的な実践方法」の勧め

第7章 実践に向けての「動機付け」

第8章 「実践に向けてのご質問」と「エール」

(注) ケーススタディやワークショップを体験いただき、
現場で即、役立つ内容にしたいと考えております。

■受講者の声：

- 目から鱗が落ちる思い、エラー対策を行ってきたが作業者がやる気をなくした状態だった。
- セミナーによりいかに相手のやる気を出させるか、不平、不満の改善等にたどり着くことができた。ちょっとだけ相手の立場に寄り添う等、今日の朝礼から早速実践。とても良い内容だった。
- ヒューマンエラーは半ば「諦めの課題」だった。今回ようやく受講でき、お話を伺い、明日からの業務に活かすことができると思った。